

Y様邸改築完了レポート

住環境再生機構(2008年12月24日 14:48)

12月某日はY様邸の引越日でした。
年末にしては晴れて暖かい引越日和となりました。

キッチンでの作業の合間に奥様と娘さんとお話しながら、今回のリフォームについて伺いました。

「長年の夢をかなえました。」と奥さんから力強い言葉をいただきました。



「一番日当たりの良い床の間のある和室と寝室の続き部屋を、ダイニングキッチンと畳敷きの居間の一続きにして、以前あったキッチンを寝室に、居間にしていた和室に仏間と床の間を持ってくるデザインを提案していただいた時は、多少抵抗もありました。」

「でも出来上がってみると、家族で使う部屋が明るく広くなって、気持ちのいい空間になりました。」

面図にあったダイニングキッチンと居間を隔てる障子については、

「戸が何重にもかさばってしまうので思い切って取り払いました。」との事、

「以前は、台所仕事を一人で離れてしなげりやしいけないでしょ。寂しかったものねえ。」

フローリングのダイニングキッチンと畳敷きの居間の間口は鴨居があるだけで、床は段差も無く、とてもすっきりとしています。

屋中は日が入って暖かく快適で過ごせそうですね。

「窓も2重サッシなので、屋間天気良ければ、今日の様に暖房いらずで、夜間の使用だけで済めば光熱費の節約になるわ。」

ご家族が居間で過ごす時間が長くなりそうですね。



娘さんは間もなく結婚されるとか、リフォーム後にはわずかしかなるが住めないそうですが、長年使い込まれたオープンの汚れを落としたり、カーテンを吊ったり、何をどこに取めようかと母娘で相談しながら、かみかみしく作業をされていました。

近い将来、お孫さんができて皆さんで集まっても、安心してキッチンに立てますね。

「なかなか踏み出せずにいたリフォームも、地震があって家が傾いたために、逆に思い切れるきっかけになりました。ほんとに良かった。」との事。

住宅は、ご家族が育ててゆく器です。

日々住みながら、新しいカーテンや小物のレイアウトが決まってきて、家族が集まる指定席ができあがる事でしょう。



Y様邸では、リフォームの前に地震でダメージを受けた基礎を直す事から始めました。

当NPO法人 住環境再生機構では、基礎や地盤の改善を得意としております。

お住まいの方が、意識することなくあたりまえに暮らせる、安全で快適な住居造りをめざしております。